

シグマ研究委員会
核データ評価W・G., 中重核核データS・W・G
1784年度第2回(拡大)会合議事録

1. 日 時 1984年7月12日(木) 10:00~13:00
2. 場 所 原研本部第7会議室
3. 出席者 菊池, 浅見, 杉(原研), 飯島(NAIG), 宝珠山, 佐々木
(MAPI), 山越(船研), 八谷(三井造船), 播磨(東工大)
4. 配布資料 HM-84-4: 浅見: 比較プロットからのコメント

5. 議 事

1) JENDL-2のstatus review

配布資料および, 各評価者に事前に配布した比較プロットにより, 別表の
ようなstatus reviewを行い, JENDL-3での重点項目を確認した。

次回会合

今回欠席した北沢氏, 中村氏の担当核種のstatus reviewを行う。

時期はGNASHの改訂作業の目途のついた時期にガス生成S.W.G.と合同で行
う。

JENDL-2 中重核の Status Review (I)

¹⁹F : 杉 暉 夫 (原研)

- 評価には ORELA のデータは入っていないが、良く合っている。
- しかし ORELA のデータの方が resolution は良い。
- 微小変更で十分。

²³N : 山 越 寿 夫 (船研)

- tot, el, capture は問題ない。
- (n, 2n), (n, p), (n, α) は GNASH で再評価する。
- 2.7 keV の共鳴パラメータは最近の実験値を調べる。
- 300 keV の minimum を再検討する。

²⁷Al : 播 磨 良 子 (東工大)

- tot の構造を follow する必要がある。
- (n, p), (n, α), (n, 2n) の再評価
これらは IRDF の採用も考えられる。→ IRDF と B/V の dosimetry file を plot して検討する。

Ca : 八 谷 雅 典 (三井造船)

- JENDL-2 はファイル化の段階で、時間の制約上、八谷氏の評価を採用していない箇所があり、これを八谷氏の評価に戻す必要がある。
- ⁴⁰Ca の Capture に normalization error がある。

⁴⁵Sc : 菊 池 康 之 (原研)

- 2 keV の minimum を藤田氏の preliminary value に合わせてあるが、final value に合せ直すべきか
- 他は OK

⁵¹V : 浅見哲夫(原研)

- tot の共鳴領域にズレ → R' の調整が必要
- tot の 5 MeV - 20 MeV に実験値と系統的なズレ
- (n, 2n), (n, n' α) 実験値と再検討
- 田中氏の後の評価担当者を決める必要あり

Cr : 浅見哲夫(原研)

- tot の 1 keV 以下で実験値に discrepancy がある。
- 非弾性レベルのグループ化が必要
- DDX の見地からは Continuum inel が低い。
- 1 keV - 10 keV の共鳴パラメータは再測定中との情報あり,

⁵⁵Mn : 宝珠山 健 (MAPI)

- tot の 0.1 ~ 200 eV にややずれがある。
- tot の非分離共鳴領域の structure を follow する必要
- tot の 10 MeV 以上に実験値とのズレがある。
- Capture の数 100 eV の共鳴にズレ → Γ_r が悪いのか
- threshold reaction は OK である。

Fe : 山越寿夫(船研), 飯島俊吾(NAIG)

- 24 keV の window は小林氏の実験に合っている。
- (n, p), (n, α) etc はやり直しが必要
- ⁵⁶Fe (n, α) が合わない。
- 共鳴パラメータは Frohner の評価値を検討の対象にしたい。

⁵⁹Co : 浅見哲夫(原研)

- tot の 100 keV 以上の structure を follow する必要
- tot の 8 MeV 以上の系統的なズレ

Ni : 菊池康之(原研)

- 共鳴パラメータに Perey の新しい物を入れる。
- Threshold reaction の見直しと追加 (特に $(n, n'\alpha)$)
- Direct and preequilibrium effect の考慮

Cu : 佐々木 誠 (MAPI)

- tot の非分離共鳴領域の structure の follow
- (n, α) , (n, p) の評価
- 共鳴パラメータの再評価
- natural と isotope の間の inconsistency

Nb Mo: 飯島俊吾 (NAIG), 菊池康之(原研)

- threshold reaction の見直し
- 高エネルギー領域の tot を実験値に合わせる。
- direct inel. を入れるか?

他に全体に共通なものとして

- Direct and Preequilibrium process の inel
- (n, t) 等特殊微小反応の取扱い。